

FURUSATO FUKAYA・SHIBUSAWAGAKU FORUM

# 「ふるさと ふかや・渋沢学」 フォーラム

## 開催案内

— FORUM GUIDE —

令和5年11月10日(金)

深谷市民文化会館  
大ホール

主催：深谷市教育委員会  
深谷市立教育研究所



# はじめに ~教育長あいさつ~

## INTRODUCTION

人生100年時代の到来や、超スマート社会の実現に向けた技術革新の急速な進展など、近年、私たちを取り巻く社会情勢は目まぐるしく変化しています。このような中、教育においては、与えられた正解のない社会状況への対応を図り、持続可能な社会の創り手を育成することが求められています。また、日本語で「幸福」とも訳される、心と身体と社会面とが健康であることを意味する「ウェルビーイング」という概念を社会に根ざして向上させていくことが大きな課題の一つとなってきました。

一方、幸いにも、「近代日本経済の父」渋沢栄一翁生誕地である本市には、偉大なる先達の知恵と精神が脈々と流れており、誇りある伝統と文化を大切に受け継ぎながら、新たな価値観を取り入れていく土壌が培われています。

このようなことを踏まえ、深谷市教育委員会では、これまでの基本理念である「立志と忠恕の深谷教育」を継承し、時代の変化を見据えつつ、令和5年3月、第3期深谷市教育振興基本計画「立志と忠恕の深谷教育プラン」を策定し、地域の宝である子供たちの未来を見据えた、確かな実践と挑戦による令和の新時代にふさわしい新たな教育の展開に努めているところです。

その1つが、「ふるさとふかや・渋沢学」であり、子供たちが「ふるさとふかや」に目を向け、愛着を見出すことで自らの拠りどころを固め、また、そこに帰って来られる「ふるさと意識」を育む教育を充実させ、持続可能なまちづくりの担い手の育成に努めています。

このような中、令和6年7月の新札発行を見据えつつ、このたび、これまでの実践をまとめ、「ふるさとふかや・渋沢学フォーラム」を開催することとなりました。各校・各機関におかれましては、本フォーラムでの発表や子供たちの学びの姿をとおして、各学校・各機関における「ふるさとふかや・渋沢学」に係る取組の更なる充実につなげていただくことを、御期待申し上げます。

結びに、本フォーラムの開催にあたりまして、貴重な御意見をいただきました「ふるさとふかや・渋沢学」推進委員の皆様をはじめ、御協力くださった皆様並びに関係各位に心から感謝申し上げます、あいさついたします。

令和5年11月

深谷市教育委員会  
教育長

小柳 光春

## 目次

### CONTENTS

- 01 はじめに・目次
- 02 ふるさとふかや・渋沢学フォーラム
- 03 } 「ふるさとふかや・渋沢学」の展開
- 04 } ~ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる大人への学び~
- 05 } 「ふるさと教育」推進校の取組
- 06 } ~深谷小学校・川本南小学校の取組~
- 07 } 中高生が考える「ふるさと」の未来
- 08 } ~深谷市中学校生徒協議会・深谷高校・深谷商業高校の取組~
- 09 ブース・展示MAP
- 10 あとがき

# ふるさとふかや・渋沢学 フォーラム

FURUSATO FUKAYA・  
SHIBUSAWAGAKU FORUM

フォーラムの様子はオンラインで各小・中学校へ生配信

市内各学校の児童生徒が会場内外で参加



## フォーラムの目的

PURPOSE

郷土の偉人・渋沢栄一翁の「立志と忠恕」の精神を育み、持続可能な地域社会を創造していくための実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目指します。

- 「ふるさとふかや・渋沢学」の現在の取組や児童生徒の学びの成果、今後の展望等について共有し、「ふるさと教育」の一層の充実を図ります。
- 地域社会や関係機関等とのつながりを深め、フィールドワークの広がりや体験活動の充実を図ります。

## 午前部

9:30～12:00

参考ページ  
05 06

### 「ふるさと教育」推進校による成果発表

～ 小学生の子供たちが、自らの言葉で「ふるさとふかや」を語る ～

- 深谷市立深谷小学校の成果発表
- 深谷市立川本南小学校の成果発表

## 午後部

13:30～15:30

参考ページ  
07 08

### 中学生・高校生・大学生による実践発表・意見交流

～ 新一万円札の顔 渋沢栄一翁生誕の地 深谷でふるさとの未来を考える ～  
「ずっと住み続けたい、学び続けたい深谷ってどんなまちだろう」

- 深谷市立中学校生徒協議会から
- 埼玉県立深谷高等学校から
- 埼玉県立深谷商業高等学校から

## ブース・展示

参考ページ  
09

### 市内各学校や関係機関における取組の紹介

～ 市内各小・中学校の「ふるさと教育」パネル展示や体験型のミニ講座 など～

- 埼玉工業大学
- 東都大学
- 埼玉県立はばたき特別支援学校
- 東京成徳大学深谷中学校・高等学校
- 正智深谷高等学校
- 深谷市内幼稚園・保育園
- 深谷市立各小・中学校

# ふるさと ふかや・渋沢学 の展開

DEVELOPMENT OF FURUSATO  
FUKAYA・SHIBUSAWAGAKU

ふるさと  
ふかや・  
渋沢学

ふるさとを愛し、夢をもち、  
志高く生きる大人への学び

～ 今求められている新しい教育！～

持続可能な地域社会の創り手を育成！～

## 「ふるさと ふかや・渋沢学」の理念

VISION

人口減少とグローバル化の進行する時代にあって、郷土の偉人・渋沢栄一翁の「立志と忠恕」の精神を育み、「持続可能な地域社会のまちづくり」に貢献できる人材を育成するため、市内の幼・保・小・中・高・大の各園・学校が、地域の関係団体や機関等と連携・協働し、豊富な教育資源を活用して、体系化されたカリキュラムづくりに取り組む中で、発達段階に応じた「ふるさと ふかや・渋沢学」を推進します。

「ふるさとふかや・渋沢学」  
推進会議

市内幼稚園(1名)、保育園(1名)、小学校(2名)、中学校(2名)、特別支援学校(1名)、高等学校(5名)、大学(2名)、  
深谷市教育委員会、学校運営協議会、PTA連合会、自治会連合会、公民館、商工会議所、商工会、青年会議所 等

## 深谷市の「ふるさと教育」の展開

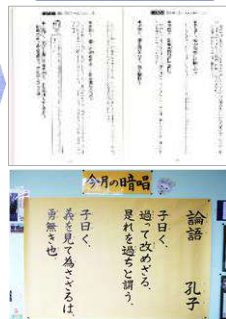
～ これまでの主な施策や取組～

### 「こころざし読本」の刊行



栄一翁に関する深谷市独自の副読本として、平成24年3月に「渋沢栄一こころざし読本」刊行以来、継続して刊行してきた。これらを道徳の授業や総合的な学習の時間等で活用している。また、この中には「論語」も掲載しており、小学校においては、これを暗唱課題として、子供たちが休み時間に校長室で暗唱の発表に取り組んだり、集会等で発表するなど、日常的に「論語」に触れる取組を行っている。

### 暗唱の取組



### 深谷の子「6つの誓い」



渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、子供たちの望ましい習慣形成を図るため、平成27年に「深谷の子『6つの誓い』」を制定。その取組の1つとして、6月6日を「深谷の子『6つの誓い』の日」とし、子供たちに「立志の精神(夢とこころざし)」と「忠恕の心(まごころと思いやり)」を育む教育活動を推進している。

### 手紙でつむぐ「ありがとう」の思い

渋沢栄一翁が大切にしていた「忠恕の心」を受け継ぐ取組として、「ありがとう」の手紙の作品を毎年募集。(令和5年度で16回目)

### こころざし 深谷塾

栄一翁の心を受け継いでいくための取組の1つで、主にグローバル人材の育成に向けた国際塾(JICAと連携)や科学技術に関する科学塾を実施。

### ふるさと先生

道徳の授業での語り部として「ふるさと先生」を派遣し、栄一翁の幼少期の様子を交えた話話などによる学習に取り組んでいる。

### まごころ訪問

小学生が一人暮らしの高齢者に、育てた花(パンジー)と心を含めて書いた手紙を届ける「まごころ訪問」を、市立全小学校で実施。取組をとおして「まごころ」と思いやりのある深谷の子を育成するとともに、「みんながうれしい深谷」のまちづくりを進めている。

### 市制10周年・深谷市歌制定

平成18年1月1日に、深谷市、岡部町、川本町、花園町の1市3町が合併し、新市誕生から10年という節目を迎えることから、深谷市誕生10周年記念式典が実施された。本事業は、テーマを「～未来に向かって生きる(飛翔～)」とし、志をもち、深谷の未来を担っていく子供たちによる演奏発表や中学生の語り合い等が行われ、深谷の未来に向けた新たな出発点となる機会となった。

平成20年 (2008年)	平成21年 (2009年)	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●手紙でつむぐ「ありがとう」の思い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ●幼稚園教育要領告示</li> <li>●小・中学校学習指導要領告示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「生きる力」の育成</li> <li>●伝統や文化に関する教育の充実</li> <li>●道徳教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語活動の充実</li> <li>●体験活動の充実 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「こころざし読本」刊行</li> <li>●「ふるさと先生」派遣授業</li> <li>●東日本大震災</li> <li>●姉妹都市の岩手県田野畑村が被災。様々な支援・交流へ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月 ●まごころ訪問</li> <li>3月 ●「渋沢栄一こころざし読本」刊行</li> <li>●深谷市教育振興基本計画策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ●「青洲・こころざし歳時記」刊行</li> <li>●「緑のバトン運動」(学校で育てた苗木を贈り、植樹。)</li> <li>&gt; 【忠恕】思いやり・社会貢献の心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ●小・中学校学習指導要領告示(一部改正)</li> <li>●「特別の教科 道徳」の位置付け</li> <li>●道徳の教科化</li> <li>●指導方法の改善</li> <li>●検定教科書の導入 など</li> <li>5月 ●深谷の子「6つの誓い」制定</li> <li>8月 ●深谷市誕生10周年式典</li> <li>11月 ●深谷市歌の制定</li> </ul>



めざす大人像

「ふるさとを愛し、夢をもち志高く生きる大人」

- (1) 郷土の偉人、沢沢栄一翁を語るようになる
- (2) 夢と学びのふるさと深谷のよさを知り、好きになる
- (3) 夢と学びのふるさと深谷に誇りを持ち、よさを発信していく
- (4) 夢と学びのふるさと深谷をよりよくしていく

栄一翁の精神を生かせる人に



持続可能な深谷市を創る人に

ふるさと深谷を愛し、持続可能なまちづくりに貢献できる人材の育成



○各関係諸機関との連携の具体化 ○モデルカリキュラムの作成 ○各校の取組発信

- ・深谷高校 ・深谷商業高校
- ・深谷第一高校
- ・深谷はばたき特別支援学校
- ・成徳深谷高校 ・正智深谷高校

- ・埼玉工業大学
- ・東都大学

- ・PTA連合会 ・自治会連合会
- ・公民館 ・商工会議所
- ・商工会 ・青年会議所
- 等

社会に開かれた教育課程【“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有】

令和の日本型教育【個別最適な学び・協働的な学び】

「沢沢spirit inふかやGIGAスクール」の推進【「沢沢spirit inふかやGIGAスクール」推進委員会との連携】

人材の循環  
深谷で育ち、  
深谷で学び、  
深谷で働く!

新札発行決定



地元の深谷「誇り」



平成31年4月9日、新一万円札の発行と、その肖像に沢沢栄一翁が選ばれたことが発表された。このことにより、「ふるさとふかや・沢沢学」の推進への機運が一層高まった。

沢沢栄一翁  
ジュニアボランティアガイド

郷土の偉人 栄一翁を学んだ子供たちが、論語の里（栄一記念館や生家「中の家」）で、ボランティアガイドとして説明や案内をする。

全8回の講座を受け、認定された児童生徒が、指定された日の中で、可能な日にボランティアとしてガイドを実践できる。



● 講座の概要 全8回 ※ 令和元年度の実績

月日	会場	講座内容
10月12日 19日 26日	栄一記念館	開講式、講義、演習
11月 2日	東京方面(栄一翁開館施設)・1日	施設研修 (バス移動)
11月 9日	栄一記念館・中の家	ガイド練習
11月16日 23日	栄一記念館・中の家・1日	実践練習
11月30日	八基公民館(栄一記念館)	振り回り、閉講式(認定)

顕彰活動をととして、子供たちに地域貢献意識を養い、ふるさとを愛し、次代を担う自覚を持った子供たちの育成を目指す取組である。

沢沢翁語らいの日



栄一翁の命日である11月11日を「沢沢翁 語らいの日」とし、この日は、栄一翁に関する校長講話や全学級での栄一翁の生き方や考え方を学ぶ授業、栄一翁が好んでいた郷土料理である煮ぼうとう給食を実施し、栄一翁のことを語りひたる1日としている。(R3~)

多様な他者や関係機関等と連携・協働した  
様々な教育活動の展開

オンライン交流



- 県内外の栄一翁かみの地の学校と、栄一翁に関する学習成果を発表
- オンラインでつながった児童が互いに育てた藍の種を交換する取組等

体験・フィールドワーク



- 小・中学校での総合的な学習の時間を中心とした様々な体験活動
- 高校・大学でフィールドワークを単位認定する取組等

「栄一翁かるた」の活用

- 商工会で「栄一翁かるた」を作成し、学校等へ発信
- 教育活動で日常的に活用
- 「沢沢翁 語らいの日」にかかる大会を開催 等



「栄一コンクール」

- 「栄一コンクール」と称して、栄一翁の生き方を学び、それをテーマにした絵画作品を募集する取組を、地域団体が主催し、教育委員会が後援となって実施



市立小・中学校(全29校)が  
コミュニティ・スクールに

市立の全小・中学校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして、PTAや学校応援団と連携・協働しながら子供たちの健全育成のための取組を推進している。



ふるさとキャリア  
パスポート

「ふるさと教育」を基盤としながら、自分らしい生き方の実現を促す「キャリア教育」を行うため、小1~中3までの学びを記録・蓄積するポートフォリオシートを作成し、各学校で活用されている。



「ふるさと ふかや・沢沢学」  
推進会議 発進



「ふるさと教育」を、オール深谷で推進するために、令和元年11月18日に推進会議を立ち上げた。施策の展開等に係る様々な協議を行ってきた。

アンケート調査

実態把握のための全数調査を実施。(R2.1月)

○調査対象(12,171人)  
市内小学校3年生~市内在学大学生4年

平成28年  
(2016年)

- 3月 ● 「深谷こころざし読本」刊行

平成29年  
(2017年)

- 3月 ● 「深谷こころざし読本」刊行
- 3月 ● 幼稚園教育要領 告示
- 小・中学校 学習指導要領 告示
- 4月 ● 特別支援学校 学習指導要領 告示
- 4月 ● 市立小・中学校(全29校)がコミュニティ・スクール!

「生きる力」の育成(未来を切り拓くための資質・能力を確実に育成)

- 主体的・対話的で深い学び
- 社会に開かれた教育課程
- かけこみ・まがいの確立
- 道徳教育・体験活動の重視

平成30年  
(2018年)

- 2月 ● 深谷の子「6つの誓い」の日 提言
- 3月 ● 高等学校 学習指導要領 告示
- 3月 ● 第2期深谷市教育振興基本計画 策定
- 「ふるさとキャリアパスポート」の作成

令和元年  
(2019年)

- 4月 ● 新札発行決定
- 6月 ● 深谷の子「6つの誓い」の日の取組
- 10月 ● 沢沢栄一翁 ジェ7ポラテア7ガイト 養成講座開始
- 11月 ● 「ふるさと ふかや・沢沢学」推進会議 発進

令和2年  
(2020年)

- 1月 ● 「ふるさとふかや・沢沢学」アンケート調査
- 3月 ● 「沢沢栄一翁 こころざし読本」刊行
- 3月 ● 新型コロナウイルスの感染拡大 学校の臨時休業
- 「ふるさと ふかや・沢沢学」の施策の展開に大きく舵を切るところでコロナ禍に...

令和3年  
(2021年)

- 1月 ● 大河ドラマ「青天を衝け」スタート
- 7月 ● 東京オリンピック 開幕
- 11月 ● 沢沢翁 語らいの日

- 多様な他者と協働した様々な教育活動 > オンライン交流 > フィールドワーク 等
- 「栄一コンクール」
- 「栄一翁かるた」の活用

- 「GIGAスクール構想」の早期実現
- 一人一台端末の貸与
- 高速ネットワーク整備
- 教育DXの推進

令和4年  
(2022年)

- 3月 ● 第3期深谷市教育振興基本計画 策定
- 11月 ● 「ふるさとふかや・沢沢学」フォーラム 開催

# 「ふるさと教育」推進校 の取組

## 深谷市立深谷小学校

系統的・横断的に学びを深める  
ふるさと教育の実践

～ ふるさと深谷を誇りに思える児童の育成 ～



うさむらいさん

深谷のことを知り、深谷の人とつながり、学んだことを発信、そして、深谷に貢献できることは何かを考え、実践しました。

### 知る



学校のまわりを探検



深谷の給食を学ぶ



渋沢栄一翁を学ぶ



深谷おぎを育てる

### つながる



中山道の商店見学



ガーデニング体験

### 発信する



模造紙や新聞にまとめて



全部 食べるぞ～！！  
タブレットでのCMづくり

### 貢献する



育てた野菜を販売



深谷の魅力英語で発信



育てたおぎを販売

# 「ふるさと教育」推進校の取組

## 深谷市立川本南小学校

ふるさと教育の  
カリキュラムマネジメント充実のために  
～ ふるさとを知り、ふるさとを愛し、  
ふるさとを創る児童の育成～



「川本南小のよい所は、何かな？」

「学習と繋げるためには？・・・」

### 【ふるさとを知る活動】

かわもと郷土かるたの活用を通して  
1年生 生活科 通学路たんけん



### 【ふるさとを愛す活動】

富山重忠公の学習を通して

ふるさと教育 富山重忠リモート交流会

深谷市立川本南小学校 ↔ 横浜市立都岡小学校

3年生【2月】 重忠公リモート交流（2.16）総合【われら川本探検隊】

3年生【3月】 重忠公リモート交流（3.10）総合【われら川本探検隊】

### 【ふるさとを創る活動】

地域と協働する活動を通して



#### ○全国学力学習状況調査の結果から

【質問事項】今、住んでいる地域の行事に参加している

	川本南小	深谷市	埼玉県	全国
令和3年度	80.6	73.2	57.1	58.1
令和4年度	57.6	65.0	50.4	52.7
令和5年度	91.0	67.8	56.8	57.8

【質問事項】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

	川本南小	深谷市	埼玉県	全国
令和3年度	63.9	60.7	51.8	52.4
令和4年度	42.4	59.5	53.7	51.3
令和5年度	86.4	78.6	78.5	76.8

+33



# 中学生・高校生が考える 「ふるさと」の未来

## 新一万円札の顔 渋沢栄一翁生誕の地 深谷で ふるさとの未来を考える



～ ずっと住みたい、  
学びたい 深谷ってどんなまちだろう～

### 深谷市生徒協議会

深谷市の“中学生の想い”をつなぐ  
生徒会本部役員の話合い

「中学生である私たちができる、  
ずっと住みたい深谷のまちづくり  
4箇条」の策定

#### 各学校の実践発表

テーマ：ずっと住みたい深谷  
とは、どんな“まち”か。」

➤ 事前にテーマを伝えられ、各学校で  
考えを深めてきた生徒たちが iPad  
を使って発表。

学級会の議題にしたり、  
生徒総会の検討事項にしたり  
して、各学校で生徒たちが  
このテーマに向き合い、  
話し合ってきたことを  
発表しました。



#### グループ協議・発表



【キーワード】

自然 安全・安心

伝統 交流・協力・尊重

地域とのつながり

経済面の発展

「ずっと住みたい深谷とはどんな“まち”か」

※ グループ協議の意見（一部）

- ・ 人と人とのふれあいでこころがあたたかくなるまち
- ・ 年齢関係なく楽しく過ごせるまち
- ・ お年寄りや若い人が交流をし、支え合えるまち
- ・ 自慢に思えるものがあるまち
- ・ 人の優しさでつながり、市民全員で協力するまち
- ・ 治安がよく自然豊かで経済面でも発展できるまち

#### 全体協議 合意形成

テーマ：今、中学生である私たちができる“ずっと住みたい深谷のまちづくり〇箇条”



私たちは

- 環境を整えます。
- 安全に気をつけて生活します。
- 深谷市の学びを大切にします。
- 人との関わりを深めます。

各学校での  
具体的な  
実践へ！



# 埼玉県立深谷高等学校

## 探究のテーマ

ずっと住み続けたい“まち”深谷って  
どんな“まち”だろう？

## 深谷高校の探究学習で高まる力

- 自分なりの“問い”を立てる力
- 情報を集める力
- 分析し、まとめ、発表する力
- 自分の生き方を考える力
- ふるさとを大切にしたい

## 深谷高校の提言

「地域コミュニティの活用」、  
「イベント」、「SNSでの情報発信」  
などをとおして、【深谷駅の活性化】  
を目指す！

期待できる効果  
「地元経済の活性化」  
「深谷の認知度の上昇」

## ① 問題意識をもつ

～「ふるさと ふかや・渋沢学」～  
探究学習講演会



生徒の  
感想

深谷市の概要について、知ることができました。  
また、深谷市の特色を深く調べ、理解するためには、自分で興味のあるテーマを設定することや、テーマ等について、他の市町と比較することが大切であることを学びました。

※ 講演会后、地理総合や地学基礎、ふかや学(学校設定科目)の授業と関連付けて学びを深めました！

## ② 探究学習 夏季集中講座

～情報を集め、仲間とともに深く考える～

コーディネーターの指導のもとに、深谷市を見つめ直し、深谷市の強みや課題点を整理する学習を行いました。探究テーマについて、自分たちの提言をまとめることができました。



生徒の  
感想

「チームワークを発揮する」ためには、個々の思いや気づきを大切に、発信することが重要であると気付きました。

## ③ 探究学習の振り返り

～自分の在り方・生き方について考える～

- 意見のまとめ方や、話し合いの仕方などを理解することができました。物事について深掘りして考えることの大切さがわかりました。
- 私のふるさとである深谷市には私の知らない魅力があり、深く知ることができました。深谷市のことをもっと知りたいと思いました。
- 探究学習で学んだ解決にむけての考え方は、とても勉強になったので、日常でも活かしていきたいです。

生徒の  
振り返り

## 「商品開発の学び」をとおして目指すこと

- 地域経済を盛り上げる(地域に貢献)
- 自身も地域社会を構成する一員であることを自覚(社会参画)
- 実際の経済活動に触れ、地域の産業を支える人材を育成

# 埼玉県立深谷商業高等学校

目指せ、ふるさと深谷の活性化！

～ 地元企業とコラボし商品開発 ～

## 平成30年度 「ふっかちゃんの初恋」



「浜岡屋」様のご協力により

## 令和元年度 「渋沢栄一翁が愛した オートミルククッキー」



「西倉西間堂」様のご協力により

## 令和4年度 「ふっかちゃんの ふわふわほっぺ」

「Pummy」様のご協力により



## 令和5年度



今年度は5つのチームが、協力企業を見つけて商品開発を行っています。開発期限は3学期です。ご期待ください！



※ 新型コロナウイルス感染症により令和2年度・3年度は対外的な活動ができませんでした。

## 深谷商業高生の振り返り

- それぞれの材料の原価率から販売額を決めたり、どの世代にも喜んでいただけるように工夫したり、さまざま考え試行錯誤し、「お店のため、お客さんのために」と考え、意欲的に取り組めました。
- 商品開発は、ただ自分が作りたい商品を作るだけでなく、世の中が何を求めているか、何を必要としているかをリサーチすることが大切だとわかりました。
- チームワークを発揮するためには、情報を共有し、コミュニケーションをとり、自分から動くことが大切であると学びました。これから社会の一員として生きていくうえで、大切なことだと思いました。



# 展示ブースMAP

EXHIBITION BOOTH MAP

## 市内各学校の取組紹介

～各学校の好事例・好実践を共有し、  
「ふるさと教育」の一層の充実へ～

### ①・② 幼児期や深谷市立各小・中学校の「ふるさと教育」 ～パネルの展示と映像の上映～



市内の幼稚園・保育園、深谷市立各小・中学校における「ふるさと ふかや・渋沢」に関連する取組を「①パネルの展示」と「②映像の放映」で紹介します。各学校の特色ある取組をご覧ください。

### ③ 正智深谷高校 ・ ④ 深谷アンバサダー プロジェクト ～CM制作～



1年生の探究学習で、市内関係各所へのフィールドワークを行い、深谷の隠れた魅力を探りました。本プロジェクトで生徒が制作した動画（CM）を放映します。

### ⑦ 東京成徳大学深谷高校 ～ 栄一翁カード作り ～



栄一翁が飛び出す「クリスマスカード」を保育系生徒と一緒に作りませんか？

### ⑧ 東京成徳大学深谷中学校 ～ 藍玉風バスボム作り ～



身近な物質を使った理科実験を行います。渋沢栄一翁に馴染み深い藍色のバスボムと一緒に作ってみましょう。

### ⑤ 埼玉県立深谷はばたき 特別支援学校



藍を栽培・収穫し、藍葉を使った染物作品を展示します。その他、生徒が作ったさまざまな制作物を紹介します。

### ⑥ 埼玉工業大学 ～ 3Dプリンタの技術 ～



身のまわりのあらゆるものの開発や製造を支える「ものづくり」の技術。その1つである「3Dプリンタ」を使用して製造したモニュメントを展示・紹介します。

### ⑨ 埼玉工業大学 ～ 自動運転バスの技術 ～

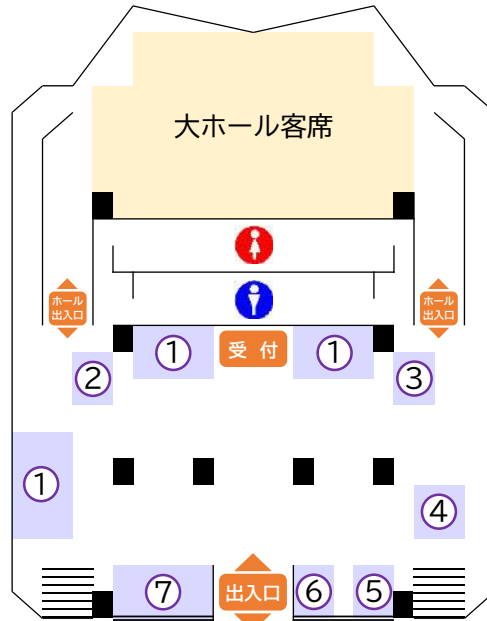


2019年4月設立の「自動運転技術開発センター」では、国内トップレベルの自動運転技術の研究開発を推進しています。自動運転バスの車内で、その技術について学ぶことができます。

### ⑩ 東都大学 「出汁を知ろう ～うま味ってなんだろう～」



料理のおいしさを引き立てる「出汁」。昆布、鰹節、干しいたけ、煮干し…と出汁が出る食材はたくさんあります。色々な素材の出汁について学ぶとともに、試飲により「うま味」を味わうことができます。



深谷城址公園

# あとがき

## AFTERWORD

● 「深谷の次代を担う人を育てたい。」

「深谷から羽ばたきつつも、ふるさとに目を向ける人を育てたい。」

日本を代表する教育実践家である 東井義雄先生は、自身の著書「村を育てる学力」で、以下のようにならっています。

私は、村の子らを、もっともっと、かしこくしてやりたい。

子らが、もっともっと、かしこくなってくれば、子らのしあわせも、村のしあわせも、なりたちはしない。

でも、そのかしこさは、ふるさとのあるかしこさでなければならない。

そういうかしこさをもった子なら、「村の土」「国の土」を豊かなものにしてくれるだろうし、生まれてきてよかった、といえるような、生きがいのある人生を築いてくれるにちがいない、と思うのだ。

「ふるさと」での学びだからこそ、子供たちは生活や社会とのつながりを実感しながら、自分事として、主体的に学習に向き合うのではないのでしょうか。

大好きで、誇りに思う「ふるさと」の学びの中で、子供たちは自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、「ふるさとのあるかしこさ」という力を身に付けていくのではないのでしょうか。そして、その力は、ふるさとに貢献したいと思う気持ちであり、よりよい社会や幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な資質・能力であると言い換えられるのではないのでしょうか。

深谷で育ち、深谷で学び、「ふるさとのあるかしこさ」をもった人に深谷の未来を担ってほしい、また、たとえ他市町村や県外へ出ていったとしても、ふるさと深谷が拠り所となり、行った場所で地域社会を担い、生きがいを切り拓いてほしいと願っています。

今後も、そのような地域社会の将来を担う自覚をもった子供たちを育てるため、ふるさとにふれ、ふるさとを理解し、誇りに思う心や態度を育む「ふるさとふかや・渋沢学」を“オール深谷”で推進してまいります。

おすびに、たいへんご多用の中にもかかわらず、本フォーラムの開催にあたりまして、多岐にわたってご協力いただきました推進委員の方々、関係機関や地域の方々、市内各学校の先生方や児童生徒、学生並びに保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年11月

深谷市教育委員会



## 深谷市教育委員会 学校教育課

〒366-8501 埼玉県深谷市仲町11-1

TEL : 048-572-9578

FAX : 048-580-3260